

「気づき」から
計画的な「支援」へ

個別の指導計画

作成と活用の手引き

平成29年3月

香川県教育委員会

— 手引き作成にあたって —

【個別の指導計画とは】

- 子ども一人一人の障害の状況等に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該子どもの個別の教育支援計画を踏まえて、より具体的に一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法などを盛り込んだものです。

【今後、さらに必要となる個別の指導計画】

- 平成28年12月に、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が出されました。その中で、新しい学習指導要領等に向けて、枠組みの見直しが行われています。大きくは、以下の6点です。

- ①「何ができるようになるか」
- ②「何を学ぶか」
- ③「どのように学ぶか」
- ④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」
- ⑤「何が身についたか」
- ⑥「実施するために何が必要か」

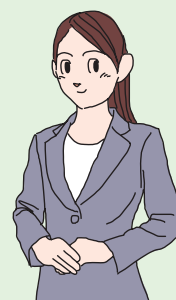
どの項目についても、個別の指導計画がかかわってくると考えますが、特に④については、個別の指導計画の作成や活用が、重要な役割を担うようになります。

【個別の指導計画の作成・活用のメリット】

- 作成することの良さ
 - ・実態把握を複数の教員で行うため、子どもの様子を共通理解できる。
 - ・実態に応じた指導やかかわり方を複数の教員で考え、実践できる。
 - ・指導の改善点を明らかにできる。
- 活用することの良さ
 - ・その子の実態に応じた指導や支援を、校内で継続的に行うことができる。
 - ・個別の指導計画を基に、具体的な指導や支援について、保護者に十分説明することができる。
 - ・校内の特別支援教育の体制を整備するための有効なツールとなる。

個別の指導計画の作成や活用に悩んでいる先生方へ

この手引書は、「どのように目標を立てればよいのか」、「実態把握はどのようにするのか」、「具体的な指導や支援の方法は、どのように書くのか」等の具体的な悩みや予想される問題を、Q&A、作成のポイントや記入例の中にちりばめ、解決のためのヒントを示しています。作成や活用で困ったときに、自分の悩みや疑問を解決できそうなページから見ていただき、参考にさせていただければと思います。



目 次

■手引き作成にあたって

「個別の指導計画」についてのQ&A

- Q1 教育課程と「個別の指導計画」の作成との関係を教えてください。・・・2
- Q2 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の関係を教えてください。・・・3
- Q3 「個別の指導計画」を作成するメリットを教えてください。・・・4
- Q4 「個別の指導計画」を作成するまでの手順を教えてください。・・・5
- Q5 実態把握は、だれが、どのようにするのですか？ ・・・6
- Q6 校(園)内委員会の構成メンバーと、話し合う内容を教えてください。・・・7
- Q7 「個別の指導計画」は、だれが作成するのですか？ ・・・8
- Q8 「個別の指導計画」に記載する内容や、記入上の留意点を教えてください。・・・9
- Q9 「指導目標」を設定するに当たってのポイントを教えてください。・・・10
- Q10 「指導の手立て」を立てるに当たってのポイントを教えてください。・・・11
- Q11 「評価」をするに当たってのポイントを教えてください。・・・12
- Q12 「個別の指導計画」を活用するための工夫や留意点を教えてください。・・・13

「個別の指導計画」作成のポイントと記入例

- ・作成のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- ・記入例1 幼稚園児(4歳)の例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- ・記入例2 小学校3年児童(通常の学級・通級による指導対象)の例 ・・・・・・20
- ・記入例3 中学校3年生徒(通常の学級)の例 ・・・・・・・・・・・・22
- ・記入例4 中学校1年生徒(特別支援学級)の例 ・・・・・・・・・・・・24
- ・記入例5 高等学校2年生徒の例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

「個別の指導計画」様式

- ・幼稚園・認定こども園 様式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
- ・小・中・高等学校 様式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

■引用・参考文献

「個別の指導計画」についてのQ&A

Q1

教育課程と「個別の指導計画」の作成との関係を教えてください。

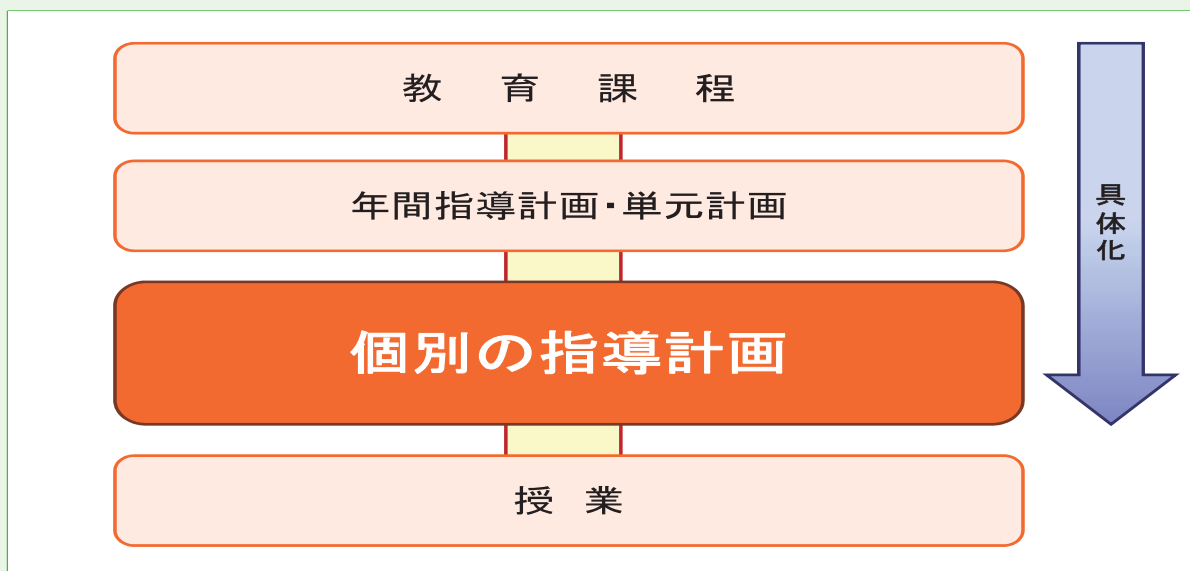
教育課程は、学校の教育計画です。

教育課程とは、幼稚園教育や学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を幼児児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した教育計画です。

教育課程をさらに具体化した計画が、指導計画です。

指導計画は、各教科や領域等のそれぞれについて、具体的な指導目標、指導内容、指導方法、指導上の留意点等を定めた、より具体的な計画です。

指導計画には、年間を見通した「年間指導計画」から、単元ごとの指導計画である「単元計画」に至るまで、様々なものがあります。



幼児児童生徒一人一人に即した指導計画が「個別の指導計画」です。

「個別の指導計画」は、幼児児童生徒一人一人の具体的な目標や指導内容、指導方法等を明確に示したものです。日々の授業において、指導内容などが個別に用意されることとなります。

「個別の指導計画」には、決まった様式はありません。

香川県では、様式例を作成し、HPに掲載しています。

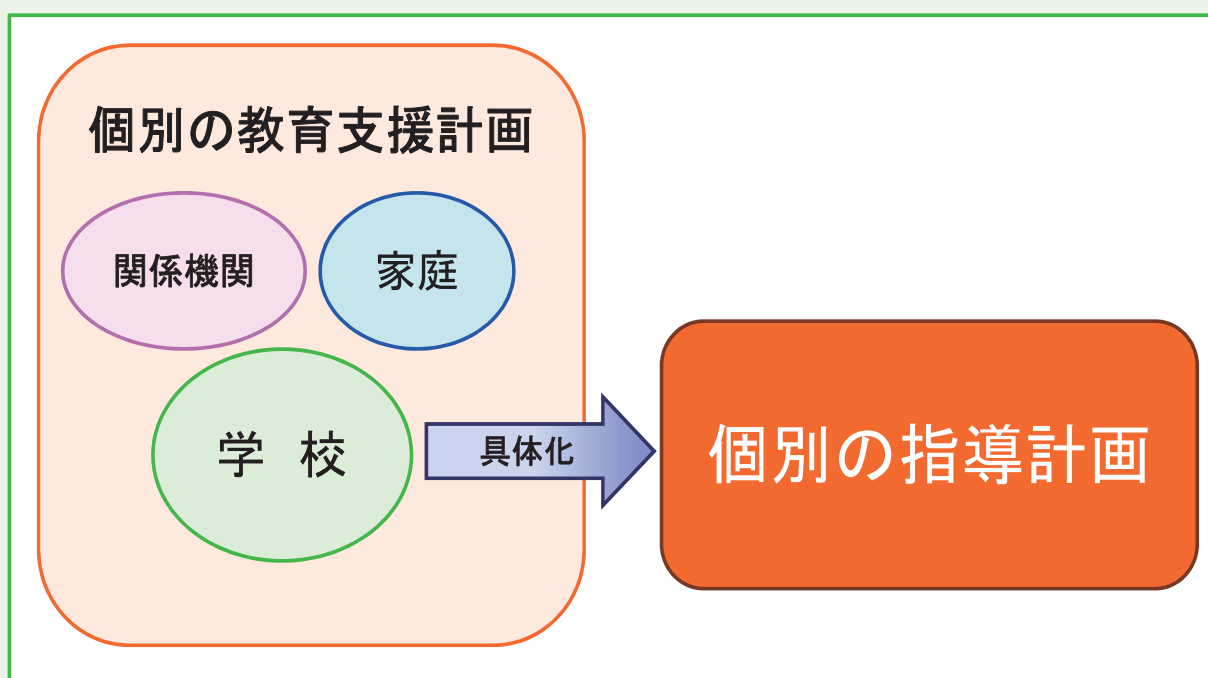
(<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/tokubetsusien/>)

Q2

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の関係を教えてください。

「個別の教育支援計画」は、かかわる人が連携して支援するための計画です。

「個別の教育支援計画」とは、本人や保護者の希望を踏まえて、障害のある幼児児童生徒一人一人を関係機関（教育、医療、保健、福祉、労働等）が連携して効果的に支援するための計画です。



「個別の教育支援計画」を具体化した計画が、「個別の指導計画」です。

「個別の教育支援計画」が、児童生徒の生活まるごとを視野に入れたトータルプランであることに対して「個別の指導計画」は、学校（園）における指導のためのものです。

「個別の教育支援計画」の学校（園）における支援の部分を具体化したものが、「個別の指導計画」であるといえます。

Q3

「個別の指導計画」を作成するメリットを教えてください。

「個別の指導計画」を作成することによる3つのメリット

1 子どもの姿が明確になります。

- ① 一人一人の障害や特性に応じたきめ細かな指導ができます。
- ② 個別的な指導だけでなく、集団の中での個別的な配慮や支援について検討することができます。
- ③ 指導を定期的に評価することにより、指導の改善につなぐことができます。



2 指導・支援の目標や指導内容などを、関係者で情報共有することができます。

- ① 校（園）内の教職員の共通理解や校内体制づくりに役立ちます。
- ② 目標や指導内容、児童生徒の様子等について、関係者が情報を共有できます。
- ③ 保護者に対して、学校での取組や対応について、明確に伝えることができます。



校内（園）委員会



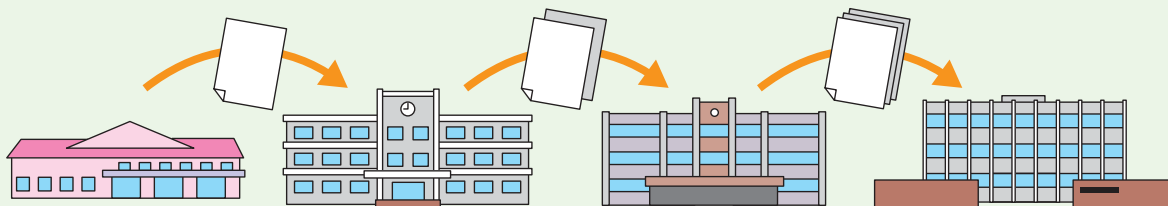
学年団や教科担当などとの話し合い



保護者との懇談

3 これまでの支援や指導を、次の支援者につなぐことができます。

- ① 校（園）内や学校間の引き継ぎの資料となり、一貫性のある指導ができます。



Q4

「個別の指導計画」を作成するまでの手順を教えてください。

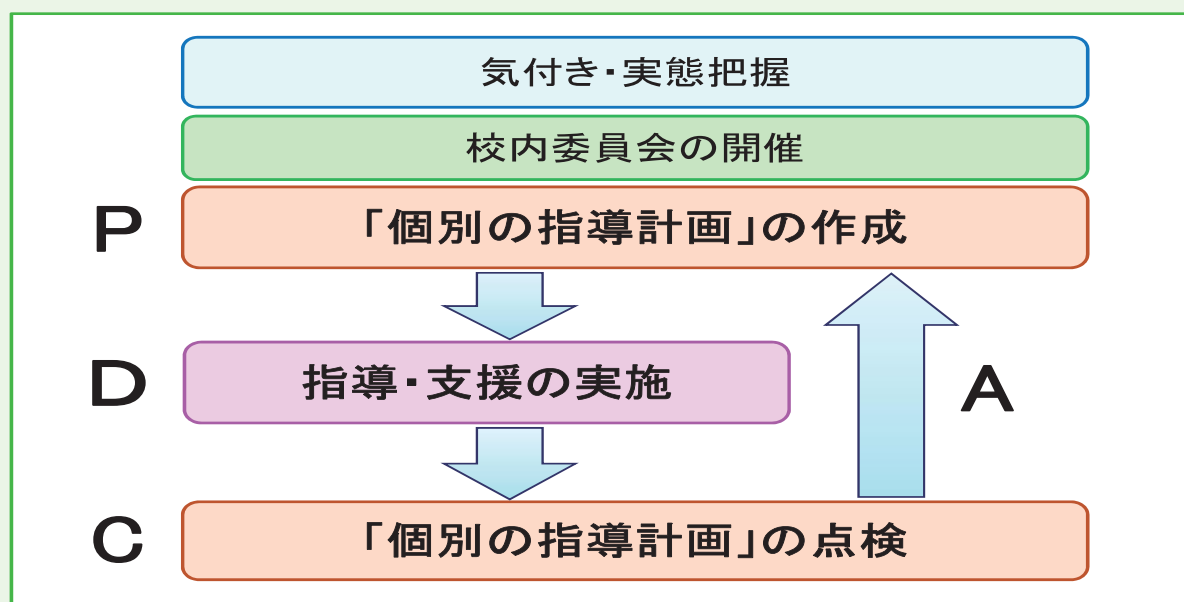


Q5[実態把握]

Q6[校(園)内委員会]

まずは、実態把握を行い、校内委員会で話し合しましょう。

指導場面で気になる行動が見られる等の気付きがあった場合には、その幼児児童生徒にかかわる教職員からの聞き取りや観察、アセスメントシート等による実態把握を行います【Q5参照】。そして、校(園)内委員会において、特別支援教育コーディネーターを中心に、重点課題や優先指導内容等について協議し、何らかの支援が必要であると判断した場合、「個別の指導計画」を作成します【Q6参照】。



「個別の指導計画」に基づく指導は、計画(Plan) - 実践(Do) - 評価(Check) - 改善(Action)の過程で進められます。

- 目標・手立ての設定 (Plan)
 - ・長期目標・短期目標、指導内容・方法を設定します。
- 学校全体での指導・支援の実施 (Do)
 - ・学習活動や個への手立て、指導の場を工夫します。
- 評価・分析・見直し (Check)
 - ・子どもの変容を評価し、目標や手立てを見直します。
- 改善 (Action)
 - ・目標や手立ての再設定をします。

Q5

実態把握は、だれが、どのようにするのですか？

実態把握は、幼児児童生徒にかかわる教職員や家庭等が連携して行います。

一人一人の実態に応じた「個別の指導計画」を作成するに当たっては、幼児児童生徒の実態を的確に把握する必要があります。学級担任を中心に、学年団の教員や教科担任、家庭等が客観的な視点をもって、**様々な側面から情報を交換し、整理していく**必要があります。

また、必要に応じて、専門家を活用することも考えられます。実態把握は、担任一人に任せるのではなく、かかわる教職員が協力して行いましょう。

実態把握は、様々な方法があります。

気付きのあった幼児児童生徒に対して、チェックシートを利用したり、行動観察をしたりすることなどにより、実態把握を行います。

香川県では、「特別支援のための実態把握チェックシート」（小・中学校用、高等学校用）により、毎年実態把握を行っています。単に、基準に該当するかどうかを知るためだけでなく、**子どもの特徴を分析して、指導・支援につないでいきましょう。**

特別支援のための実態把握チェックシート（小中学校用） 香川県教育委員会

以下の基準に該当する場合は、特別な教育的支援を必要とする児童生徒（発達障害のある児童生徒を含む。）であると考えられます。＊基準に該当しない場合も一人一人のニーズに応じた支援をする必要があります。

(1)～(6)は、少なくとも一つの領域で得点合計12ポイント以上の場合

(7)と(8)は、一つ以上の領域で6ポイント以上の場合

(9)は、全ての項目の合計が22ポイント以上の場合

(1) 聞く (チェック:0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	聞き間違いがある。(「知った」を「いった」と聞き間違える)	0	1	2	3
2	聞きもらしがある。	0	1	2	3
3	個別に言われると聞き取れるが、集団指示では難しい。	0	1	2	3
4	指示の理解が難しい。	0	1	2	3
5	話し合いが難しい。(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)	0	1	2	3
合計ポイント					

(2) 話す (チェック:0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話す。とても早口である)	0	1	2	3
2	ことばにつまったりする。	0	1	2	3
3	単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする。	0	1	2	3
4	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい。	0	1	2	3
5	内容を分かりやすく伝えることが難しい。	0	1	2	3
合計ポイント					

(3) 読む (チェック:0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

1	読んでから内容を話す、質問を聞いてから話す、読みながら話すなど、	0	1	2	3
---	----------------------------------	---	---	---	---

Q6

校(園)内委員会の構成メンバーと、話し合う内容を教えてください。

校(園)内委員会を設置して、学校全体として組織的に対応します。

学級担任が、幼児児童生徒の示すさまざまな問題や困難を一人で抱え込むのではなく、効果的な指導や対応に向けて、その子どもの問題や課題を**学校全体として共有し、全校的な支援体制をとる**ことが重要です。

校(園)内委員会は、校長(園長)のリーダーシップの下、**特別支援教育コーディネーターが企画・運営**します。構成メンバーは、学校(園)の実情に合わせて決定します。

校(園)内委員会構成メンバーの例

特別支援教育コーディネーター、校長(園長)、教頭、対象幼児児童生徒の学級担任、教務主任、学年主任、生徒指導主事、特別支援学級教育担任、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど



特別な教育的支援が必要な幼児児童生徒の具体的な支援策の検討を行います。

特別な教育的支援が必要な幼児児童生徒の困難の状況について整理し、適切な学びの場の検討や通常の学級でできる支援の検討など、**具体的な支援策について話し合います**。ここで話し合われたことを踏まえて、「個別の指導計画」を作成します。

校(園)内委員会では、指導の評価や見直しを行い、改善策について話し合います。

「個別の指導計画」を作成したら終わりではなく、実際に指導・支援を実施した後、支援策は適切であったかを評価し、目標や指導内容、方法等についての見直しを行います。

効果が十分でなかった場合には、実態把握を再検討したり、目標や手立てを再設定したりするなど、**改善策について話し合います**。

Q7

「個別の指導計画」は、だれが作成するのですか？

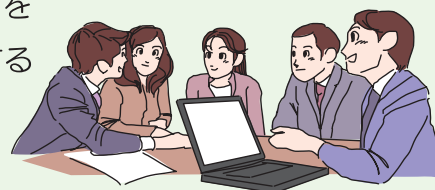
「個別の指導計画」は、学級担任が中心となって作成します。

「個別の指導計画」は、最も幼児児童生徒の状態が分かっている**学級担任が中心となって作成していく**ことが望めます。しかし、現状では、学級担任が一人で実態把握から課題や目標を絞り込み、指導計画を立てていくことはかなり難しいことです。

そこで、特別支援教育コーディネーター、生徒指導や教育相談担当の教師、養護教諭等の校（園）内委員会のメンバーが協力し、幼児児童生徒の情報を整理しながら話し合い、作成していくことが望めます。実態把握と同様に、**学級担任一人に任せるのではなく、かかわる教職員が協力して行いましょう。**

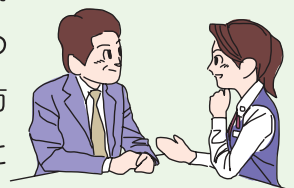
1 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の場合

学級担任が作成します。特別支援教育コーディネーターを中心とした校（園）内委員会のメンバーが協力して作成することが望めます。



2 通級による指導を受けている児童生徒の場合

在籍学級担任が中心となって作成します。通級指導教室の担当教師も作成にかかわり、通級指導教室において受けている指導内容等について、在籍学級の個別の指導計画に反映させるようにするなど、双方の共通理解のもと教員間の連携に努め、効果的な指導に結び付くことが求められます。



3 特別支援学級に在籍している児童生徒の場合

特別支援学級担任が中心となって作成します。交流学級で学習する場合や教科担任制で指導する場合などは、共通理解を図りながら、目標の設定や評価を行います。



Q8

「個別の指導計画」に記載する内容や、記入上の留意点を教えてください。



P16～17

〔作成のポイント〕

項目ごとの記載内容及び記入上の留意点

「個別の指導計画」の項目として、「現在の実態」「指導目標（長期目標・短期目標）」、「指導の手立て」「指導の評価」などが挙げられます。それぞれの項目における、記載内容や記入上の留意点について、下表にまとめています。

項目	内容及び留意点
現在の実態	<p>「学習面」や「生活・行動面」、「社会性・情緒面」等の実態を挙げます。「学習面」をさらに教科ごとに分けたりする方法もあります。</p> <p>うまく取り組めていない面ばかりでなく、得意な面やよいところも取り上げることで、幼児児童生徒の全体像が見えてきます。また、担任だけの情報ではなく、幼児児童生徒にかかわりのある人たちから情報を集め、できるだけ多面的に実態を捉えるようにしましょう。</p>
指導目標	<p>長期的な観点と短期的な観点で、幼児児童生徒が達成可能な目標を設定します。長期目標は、1年間程度の期間を、短期目標は、長期目標をもとに、学期ごと（3か月程度）の期間を設定して目標をたてます。</p> <p>実現不可能な目標になったり、障害特性をそのまま目標にしたりすることのないように留意しましょう。指導内容を段階的に取り上げ、具体的な目標を設定するようにしましょう。</p>
指導の手立て	<p>指導目標を達成するために必要な指導内容や方法を設定します。一人一人の教育的ニーズに応じて、必要な手立てを明確にし、目標に対する具体的な手立てを設定しましょう。</p>
指導の評価	<p>目標の達成度、手立ての適切性、幼児児童生徒の変容等について評価します。定期的な評価をして、見直していきましょう。</p> <p>幼児児童生徒の評価は、できるだけ基準を明確にし、客観的な評価を行いましょう。「かなりできる」「だいたいできる」等のあいまいな表現は避け、達成が観察できる具体的な頻度や回数等の表現を使うようにしましょう。</p>

この表の項目は、香川県教育委員会の様式例を参考にしたものです。「個別の指導計画」は、決まった様式はありません。各学校（園）において、必要と思われる項目がある場合は追加するなど、工夫して作成をしてください。

Q9

「指導目標」を設定するに当たってのポイントを教えてください。



P16〔長期目標〕

P17〔短期目標〕

指導目標を設定するに当たってのポイント

短期目標は、指導の手がかりとなる具体的な内容とし、抽象的な表現を避けましょう。

ポイント	よい例	よくない例
子ども主体の目標である	～できる	～させる
目標が絞られている	計算できる	計算ができ、計算の仕方を発表することができる
評価可能な目標である	作文に「いつ」「どこで」を書くことができる	上手に作文を書くことができる
条件が示されている	表情カードを用いることで、～できる	～できる
基準が示されている	2年生で学習する漢字の8割を書くことができる	2年生で学習する漢字を書くことができる
子どもの強みを生かしている	写真を見て振り返りながら、作文を原稿用紙に1枚分書くことができる	作文を書くことができる

達成可能な目標を立てましょう。

実態把握が不十分であったり、教師の思いだけが強く打ち出されたりすると、目標と実践が結び付かず、目標が達成できなくなる恐れがあります。

「長期目標」は、1年間取り組んだら達成できることを、「短期目標」は、1学期間（3か月程度）で達成できることを目標とします。1年経っても目標が達成できない場合は、目標の立て方に無理があったと考え、目標を修正することが必要となります。

幼児児童生徒の違いを認め、一人一人の実態に応じた目標を立てましょう。

同じ障害の診断名であっても、幼児児童生徒によって興味・関心や好きなことが一人一人違います。また、集中力、学習方法、習得するまでの時間なども一人一人違います。障害によって目標を立てるのではなく、一人一人の能力や特性に合わせて目標を立てることが大切です。

Q10

「指導の手立て」を立てるに当たってのポイントを教えてください。



P17[指導の手立て]

「指導の手立て」は、指導目標が実現できるように、具体的な指導方法や手段を、教師側の立場から記述します。

「指導の手立て」は、教材・教具の工夫、支援や配慮の工夫、学習活動の工夫、見通しをもてるようにする工夫など、ポイントを押さえて記述します。

1 教材・教具の工夫

教師がどのような教材・教具を使うのか、どのように工夫するのかについて記述する。

(例) 漢字にルビをふったプリントを用意して、読む練習をする。【P23 参照】



2 支援や配慮の工夫

教師がどのような支援や配慮をするのかについて記述する。

(例) 大切なことを話す前に、教師が注意喚起をしたり、個別に声をかけたりすることにより、集中して聞くことができるようにする。【P21 参照】



3 学習活動の工夫

幼児児童生徒が興味・関心をもって活動できるようにするための工夫について記述する。

(例) 朝の会で、顔洗い、歯磨き等について確認し、できていたら、好きなキャラクターのシールをはる。【P25 参照】

4 見通しをもてるようにする工夫

幼児児童生徒が自分で活動の見通しをもてるような工夫について記述する。

(例) 前もって映像を見せたり、行ってみたりするなど、リハーサルを行うことで、落ち着いて参加できるようにする。【P19 参照】

合理的配慮として行った手立てを、記録として残します。

本人や保護者との合意形成のもと実施した配慮などを、「個別の指導計画」の手立ての欄に記述することが望めます。

(例) 「文章を読みやすくするために、文字を 24 ポイントに拡大したプリントを使って読むようにする。」(合意形成)【P23 参照】

Q11

「評価」をするに当たってのポイントを教えてください。



P17〔評価〕

「評価」を、記号(◎、○、△)で表すことで、達成度が一目で分かるように工夫します。

「評価」は、記述だけでなく記号で表すことで、達成度が一目で分かり、かかわる人で確認することができます。香川県の様式例では、以下の3段階で表すようにしています。

学習の評価(観点): 幼児児童生徒の立場での評価

- ◎: おおむね達成した
- : 一部達成した
- △: 達成していない



「評価」の記述は、幼児児童生徒の立場で記述します。

「評価」には、できるようになった、意欲的に取り組むことができたという幼児児童生徒の立場での評価と、目標の設定や指導方法が適切であったかという教師の立場での評価が考えられます。「個別の指導計画」の評価の欄には、**幼児児童生徒の立場での評価を記入しましょう。**

(例)「文字を拡大することで、行をとばさず読めるようになった。」【P23 参照】

「自分で確認しながら準備するようになり、忘れものが減ってきている。」【P23 参照】

目標設定や教材・教具、指導内容・方法などの指導の評価を行います。

目標が達成されなかった場合は、以下の観点で見直しをしましょう。

指導の評価(観点): 教師の立場での評価

- 1 目標設定は適切であったか
- 2 教材・教具が個々の幼児児童生徒に合っていたか
- 3 指導内容・方法や学習環境の設定が適切であったか
- 4 幼児児童生徒の興味・関心に合っていたか
- 5 指導の手立てに過剰な配慮や不足はなかったか

指導の評価に基づいて、来学期(年度)の指導の方向性をまとめ、指導目標や具体的手立てを設定しましょう。このように、**計画(Plan) - 実践(Do) - 評価(Check) - 改善(Action)の過程を進めていく**ことで、より効果的な指導につながっていきます。

Q12

「個別の指導計画」を活用するための工夫や留意点を教えてください。

「個別の指導計画」は作成することが目的ではありません。「個別の指導計画」をより効果的に活用するために、各学校で実際に行っている工夫を紹介します。

【サポートファイル「かけはし」による情報の引き継ぎ】

サポートファイル「かけはし」を作成している保護者には、これまでの「個別の指導計画」を綴ってもらって、新しい学校や担任、関係者に見てもらうことで、情報を引き継ぐことができます。



【ケース会議での対象生徒の様子を知る資料としての活用】

特別支援教育支援員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等とのケース会議で、「個別の指導計画」を活用して話し合うことができます。

【大学センター試験等での配慮】

中学校や高等学校での定期考査や授業での配慮事項を「個別の指導計画」に記録として残しておくことで、大学入試センター試験や、高等学校入学者選抜等で配慮を受ける際の資料となりました。

【ファイルの保管による活用】

職員室や学年団室などに、「個別の指導計画」を綴じたファイルを保管しています。新しい情報が加わった時などに職員に周知し、必要なときにいつでも見ることができます。

【自作教材等の引継ぎ】

指導の手立てとして作成した絵カードなどの教材を蓄積したり、「個別の指導計画」に写真を添付したりすることで、次の担当者が具体的にイメージできるようにしています。

【幼児児童生徒の成長の跡を確認】

期末懇談の際に、「個別の指導計画」に沿って保護者と目標や手立て、成果などを話し合うことで、幼児児童生徒の成長の跡を確認することができます。



情報の管理に十分留意しましょう

「個別の指導計画」には、個人情報が多く含まれています。情報管理には十分留意しましょう。また、ここで知り得た情報を校(園)内関係者以外の人に伝える際には、**本人・保護者の了承が必要です**。校(園)内の管理体制等について、校内の手続きを明確にしておきましょう。

管理に当たっては、個人情報保護法及び県や市町における個人情報保護条例等に基づき、適切な取り扱いに留意するとともに、個人の権利利益の保護を図ることが大切です。

「個別の指導計画」作成のポイントと記入例

個別の指導計画

作成のポイント

(. 作成) 担任名

作成のポイント

氏名	生年月日	年	月	日	歳	第	学年	組
現在の 実態	子ども保護者の 願い	※できるだけ、保護者や本人の願いを取り入れ、計画・評価に参画してもらうことが望まれます。						
	学習面	※教科等の習得状況、学習習慣の形成、学習意欲、学習上の配慮事項など				※各教科等における、得意な面や苦手な面について記入します。		
	生活・行動面	※基本的な生活習慣、健康面の状態、安全、生活リズムなど				※「学習面(遊び・運動面)」、「生活・行動面」、「社会性・情緒面」の3項目について、できるだけ多くの情報を書き込みます。		
	社会性・情緒面	※興味・関心、指示理解、意思表示、情緒、集中力など				※つまずきや課題だけでなく、得意なことも指導・支援のヒントになることが考えられるので、できるだけ記入しましょう。		
重点的に 取り組む 指導の 観点	※上記の実態を総合的に分析し、生活や学習上の困難を改善・克服するために、重点的に取り組む指導の観点をまとめ、箇条書きで記入します。							

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面	※一年間程度の期間を設定して目標をたてます。	※学校内で考えられる学びの場から、目標達成に向けた指導の場を記入します。
生活行動面・ 社会性・ 対人関係	<p>👉「長期目標」は、優先順位をつけて、2~3項目に絞ってたてましょう。</p> <p>※緊急性があるもの、成果が期待できるものから優先的に設定しましょう。</p> <p>※必要に応じて、見直しや修正をしましょう。</p> <p>※将来の自立や社会参加につながる目標を設定しましょう。</p>	

() 学期の取り組み		
	指導目標（短期目標）	指導の手立て
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	<p>※学期ごとの期間を設定して目標をたてます。</p> <p>👉「短期目標」は、具体的な目標をたてましょう。</p> <p>※数値目標を明示するなど、できるだけ肯定的で具体的な記述にしましょう。</p> <p>※スモールステップの課題を意識して設定しましょう。</p> <p>※評価が可能な目標をたてましょう。</p>	<p>※短期目標を達成するために必要な支援内容や方法を設定します。</p> <p>👉目標達成のための、具体的な手立てを設定しましょう。</p> <p>※幼児児童生徒の特性に配慮し、無理なく取り組めるようにしましょう。</p> <p>※受検上の配慮につながると思われる支援等、「合理的配慮」として実施する配慮について具体的に記入しましょう。</p>
	評価（◎ ○ △）	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	<p>◎</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>※学習評価について、幼児児童生徒の立場で記入します。</p> <p>👉「評価は、できるだけ可視化しましょう。</p> <p>※学期の取組について、3段階で評価しましょう。（◎:おおむね達成した、○:一部達成した、△:達成していない）</p>	<p>※評価に基づき、来学期（年度）の方向性を記入します。</p> <p>👉教師側の評価を行い、見直しましょう。</p> <p>※指導の評価として、目標設定や指導内容・方法は適切であったかなどの観点で見直し、改善しましょう。</p>

() 学期の取り組み		
	指導目標（短期目標）	指導の手立て
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	<p>👉前学期終了時の方向性を基に、指導目標や具体的手立てを設定しましょう。</p> <p>※目標が達成できた場合（◎）は、次の目標に移行しましょう。</p> <p>※目標が未達成の場合（○、△）は、目標を見直したり、手立てを変えて継続して取り組んだりしましょう。</p>	
	評価（◎ ○ △）	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	◎	
	○	
	△	

幼稚園児（4歳）の例

個別の指導計画

記入例

（ 作成） 担任名 ○ ○ ○ ○

氏名	○ ○ ○ ○	生年月日	年 月 日	4歳
現在の 実態	保護者の 願い	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとかかわって遊べるようになってほしい ・自分の気持ちが伝えられるようになってほしい。 		
	遊び ・ 運動面	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも一人で遊んでいる。 ・ブランコで遊んだり、高い所に登ったりすることが好き。 ・室内では、本を読んで過ごしていることが多い。 ・滑り台やブランコで遊ぶ際に、順番を守れずに割り込んでしまうことがある。 		
	生活 ・ 行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えや持ち物の整理などは、自分でできる。 ・食べ物の好き嫌いが多いが、量を減らすと食べることができる。 ・初めての場所では、トイレに行けないことがある。 ・思い通りにならないことや、嫌なことがあると、大声を挙げて暴れることがある。 		
	社会性 ・ 情緒面	<ul style="list-style-type: none"> ・話しかけても反応しないことや、相手の言ったことを繰り返すことがある。 ・指さしやジェスチャーがあると、指示が通りやすい。 ・特定の友だちに興味を示し、近寄ってじっと見ていることがある。 		
重点的 に 取り組 む 観 点 組	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に集団の遊びに参加することができる。 ・自分の思いを相手に伝えることができる。 ・指示を理解して、行動できるようになる。 			

今年度の目標（長期目標）		主な指導の場
遊び ・ 運動面	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がいる場面で、友だち2～3人の集団遊びに参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊び ・遠足などの行事
生活 行動面 ・	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを、教師にカード等を使って伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活全般
社会性 ・ 対人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉やカード等での指示を聞いて、行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活全般

記入例

(1) 学 期 の 取 り 組 み				
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
遊び・運動性・生活関係 ・2～3人の友だちと交替して遊ぶことができる。 ・うれしいことや嫌なことを、教師に絵カードを使って伝えることができる。 ・教師の言葉やカード等での指示を聞いて、行動することができる。	順番ボードに顔写真をはって順番を示すことで、順番を意識できるようにする。 ・数種類の表情カードを使って、自分の気持ちを伝えることができるようにする。 ・言葉による指示と絵カードや文字カードで示すことで、理解を促す。	○ ・前の順番の友だちが分かり、待つことができるようになってきた。しかし、次の友だちに替わることはできない。 △ ・表情カードの種類が多かったため、自分の気持ちに近い表情を選んで伝えることが難しかった。 ◎ ・「トイレに行く」など、簡単な指示であれば、指示を理解して行動できるようになった。	順番ボードを継続して使いつつ、自分が遊ぶ時間を、タイマーで示すようにする。 ・目標は変えずに、表情カードの種類を減らして様子を見る。 ・目標が達成できたので、目標を変えて取り組む。	

(2) 学 期 の 取 り 組 み				
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
遊び・運動性・生活関係 ・友だちと交代して遊ぶことができる。 ・うれしいことや嫌なことを、教師に伝えることができる。 ・初めての場所でも、落ち着いて参加することができる。	遊ぶ時間をタイマーで示すことにより、アラームが鳴ったら次の友だちと交代できるようにする。 ・「うれしい」「嫌だ」「悲しい」の3種類の表情カードを使って、自分の気持ちを伝えることができるようにする。 ・前もって映像を見せたり、行ってみたりするなど、リハーサルを行うことで、落ち着いて参加できるようにする。			

(3) 学 期 の 取 り 組 み				
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来年度の指導の方向性	
遊び・運動性・生活関係				

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △ 達成していない

小学校3年児童（通常の学級・通級による指導対象）の例

個別の指導計画

記入例

(. . . 作成) 担任名 ○ ○ ○ ○

氏名	○ ○ ○ ○	生年月日	年 月 日	9歳	第3学年 2組
現在の生活・行動面 の 実 態	子ども保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良くしたい。(本人) ・友だちとのかかわりが分かり、仲良く過ごすことができるようになってほしい。(保護者) ・感情のコントロールができるようになってほしい。(保護者) 			
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を覚えることが苦手で、2年生までの漢字が未習熟である。 ・足し算・引き算は、指を使って計算することができるが、時間がかかる。 ・文章題では、問題文の意味を理解したり、イメージしたりすることが苦手である。 ・理科の実験や図工は得意である。 			
	生活・行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を時間内に食べられないことが多い。最近、牛乳が全部飲めるようになってきた。 ・休み時間、友だちと一緒に遊ぶことができている。 			
	社会性・情緒面	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を受けているが、内容を理解していないことがある。 ・大人びた会話をすることがある。相手の言葉遣いが悪いと怒り出すことがある。 ・相手の気持ちを考えて行動することができるようになってきている。 ・できないことがあると大変不安になるが、小さいことでもできると自信に繋がり、次からは落ち着いて取り組むことができる。 			
重点的に取り組む指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字や足し算・引き算などの基礎学力が定着する。 ・相手の話を集中して聞く。 				

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生までの漢字を覚えることができる。 ・2年生までの足し算や引き算を素早くすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級 ・放課後補充指導 ・通級指導教室
生活行動面・		
対人関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を集中して聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級 ・学校生活全般 ・通級指導教室

(1) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
学習面 / 生活・行動面 社会性・対人関係面 ・前学年(1・2年)までの基礎的な学習の力を身に付けることができる。 [・漢字(達成度 8割) ・計算(達成度 9割)] ・教師の話を中心して聞き、正しく行動することができる。	・5分間ドリルを実施することで、継続的に復習し、習得できるようにする。 [・漢字は、偏や旁を意識して書く。 ・計算は、スピードも意識してする。 ・大切なことを話す前に、教師が注意喚起をしたり、個別に言葉をかけたりすることにより、集中して聞くことができるようにする。	◎ ・漢字や計算では、1年生からの復習プリントを実施し、目標を達成すれば次に進めるようにすることで、2年生までの内容を9割以上達成することができた。 ○ ・1対1の場面や小集団ではできようになるようになっているが、学級集団や全校集会等の場では聞き漏らしてしまっていることがある。	・目標が達成できたので、目標を変えて取り組む。 ・大集団では、聞き漏らしたり、聞いたことをすぐに忘れてしまう傾向があるので、視覚的な支援を考える。	

(2) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
学習面 / 生活・行動面 社会性・対人関係面 ・人の話を聞き、話の内容を理解することができる。 ・教師の話を中心して聞き、正しく行動することができる。	・話の内容をきちんと理解しているかを、もう一度自分の言葉で表現させることで確認していく。 ・大切な言葉や手順などを、短い言葉で板書するなどして、後から自分で確認できるようにする。 ・大切なことは、自分でメモを取るよう促す。			

(3) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来年度の指導の方向性	
学習面 / 生活・行動面 社会性・対人関係面				

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △達成していない

中学校3年生徒（通常の学級）の例

個別の指導計画

記入例

(. . . 作成) 担任名 ○ ○ ○ ○

氏名	○ ○ ○ ○	生年月日	年 月 日	15歳	第3学年 4組
現在の 実態	子ども保護者の願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと一緒に学校生活を楽しまたい。(本人) ・ 学年相応の学力を身に付けてほしい。(保護者) 			
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読む時に、文字や行をとばしてしまうことがある。 ・ 書くことが苦手な時間がかかる。作文も苦手である。 ・ 計算は得意である。 ・ 文章題になると式が立てられず間違いが多い。 ・ 理科の実験や観察は関心を示す。 			
	生活・行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忘れ物が多い。 ・ 係活動に積極的に取り組むことができている。 ・ 予定変更を早めに伝えることで、落ち着いて活動に参加できるようになっている。 			
	社会性・情緒面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間などに、ルールが守れずに友だちとトラブルになることがある。 ・ 冗談が通じない。 ・ 相手の気持ちを考えずに、遠慮なく言うことがある。 			
重点的に取り組む 指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読んだり書いたりする力を身に付ける。 ・ ルールを守る、相手の気持ちを考えて行動するなど、友だちとのトラブルを減らす。 ・ 忘れ物を減らす。 				

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の文字や行をとばさずに読むことができる。 ・ 原稿用紙1枚程度の作文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の学級 ・ 通級指導教室 ・ 放課後取り出し指導
生活行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で持ち物の準備することで、忘れ物を減らすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活全般 ・ 通常の学級
対人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中でルールを守って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活全般 ・ 通級指導教室

(1) 学 期 の 取 り 組 み			
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来 学 期 の 指 導 の 方 向 性
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書等の文章を読む際に、行を とばさずに読む。 ・自分で持ち物の準備をする。 ・勝ち負けにこだわらず、ルールを守って遊ぶ。 	◎ ○ △	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室や放課後指導を活用し、漢字にルビを付けたプリントで読む練習をする。定期考査でもルビを振ったプリントを使用する。 ・定着するまで、この方法を継続し、様子を見る。 ・話し合ったルールを掲示するなど視覚化をすることで、いつでも自分で確認できるようにする。

(2) 学 期 の 取 り 組 み			
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来 学 期 の 指 導 の 方 向 性
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書等の文章を読む際に、漢字を とばさずに読む。 ・自分で持ち物の準備をする。 ・勝ち負けにこだわらず、ルールを守って遊ぶ。 		

(3) 学 期 の 取 り 組 み			
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来 年 度 の 指 導 の 方 向 性
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面			

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △ 達成していない

中学校 1 年生徒（特別支援学級）の例

個別の指導計画

記入例

(. 作成) 担任名 ○ ○ ○ ○

氏名	○ ○ ○ ○	生年月日	年 月 日	13歳	第 1 学年 3 組
現在の 実態	子ども保護者の 願い	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が分かるようになりたい。友だちと仲良くしたい。(本人) ・将来、自立した生活ができるようになってほしい。(保護者) 			
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生までの漢字の読み書きができるが、文章の読み取りや作文を書くことは苦手である。 ・足し算・引き算は、指を使って計算することができるが、文章題になると立式が難しい。 ・体を動かすことは好きで、体育の学習には意欲的に取り組む。 			
	生活・ 行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間、外で元気に遊ぶことができている。 ・毎日、元気のよい挨拶をすることができる。 ・清掃や作業活動にまじめに取り組むことができる。 ・顔洗い、歯磨き、服装を整えることなどができていないことが多い。 			
	社会性・ 情緒面	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話を聞いているが、内容を理解していないことがあり、行動が不十分なことがある。 ・自分のしたいことを譲れず、思いを押し通してしまうのでトラブルになることがある。 ・誰にでも親しみを込めて話しかけることができる。 			
重点的に 取り組む 指導の 観点	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んだり、書いたりする力を付ける。 ・体を清潔に保ち、服装を整える。 ・譲ったり、我慢したりすることができる。 				

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校中学年程度の文章を読んだり、書いたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級
生活 行動面・	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で体を清潔に保ち、服装を整えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級 ・学校生活全般
対人 関係 社会性・	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのかかわりの中で、我慢したり、譲ったりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級 ・交流学級 ・学校生活全般

(1) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来 学 期 の 指 導 の 方 向 性	
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校低学年程度の短い文章を読んだ内容を理解することができる。 ・ 顔洗い、歯磨き、服装を整えることができる。 ・ 特別支援学級の友だちとのかわりの中で、譲ったり、我慢したりすることができる。 	◎ ○ △	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が達成できたので、目標を変えて取り組む。 ・ 良い服装を意識できるように視覚的支援を取り入れる。 ・ 実際の場面において注意するより、できたことをほめるようにし、自尊感情を高める。 	

(2) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来 学 期 の 指 導 の 方 向 性	
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の経験したことについて、5程度の作文が書ける。 ・ 服装を整える習慣を付ける。 ・ 特別支援学級の友だちとのかわりの中で、譲ったり、我慢したりすることができる。 	◎ ○ △	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5W1Hを意識したり、挿し絵などを手がかりにしたりして、2年生程度の文章の読解ができるようになってきた。 ・ 顔洗い、歯磨きは雑ではあるができていくことが増えた。服装は乱れていることが多い。 ・ その場になると自分の気持ちを抑えられず、友だちとトラブルになることがある。 	

(3) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来 年 度 の 指 導 の 方 向 性	
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事や活動の振り返りとして、写真やビデオを手がかりに作文や日記を書く機会を設ける。 ・ よい服装を鏡の横に掲示し、すぐに自分の服装と見比べて点検できるようにする。 ・ 学習や遊びの中で、友だちと一緒にルールを決め、譲ったり、我慢できたりしたことをほめる。 	◎ ○ △	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5W1Hを意識したり、挿し絵などを手がかりにしたりして、2年生程度の文章の読解ができるようになってきた。 ・ 顔洗い、歯磨きは雑ではあるができていくことが増えた。服装は乱れていることが多い。 ・ その場になると自分の気持ちを抑えられず、友だちとトラブルになることがある。 	

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △ 達成していない

高等学校 2 年生徒の例

個 別 の 指 導 計 画

記入例

(. 作成) 担任名 ○ ○ ○ ○

氏 名	○ ○ ○ ○	生年月日	年 月 日	17歳	第 2 学年 7 組
現 在 の 実 態	子 ど も の 願 い ・ 保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンに関係のある仕事に就きたい。(本人) ・周りの友達とよい関係を築いて、充実した学校生活を送ってほしい。(保護者) ・本人の個性が活かせる職業についてもらいたい。(保護者) 			
	学 習 面	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題などの苦手な課題は避けようとするが、パソコンを使った学習などの興味のある学習には集中的に取り組むことができている。 ・「情報」でのパソコン入力や表計算などは得意である。 ・板書を書き写すのに時間がかかる。 			
	生 活 ・ 行 動 面	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、言葉による指示を理解することが苦手である。 ・忘れ物が多く、期限までに提出物を出すことができない。 ・時間や活動の手順にこだわり、柔軟な対応ができにくい、自分の役割や手順が理解できれば、最後までやり遂げることができる。 			
	社 会 性 ・ 情 緒 面	<ul style="list-style-type: none"> ・思いついたことを口にしてしまい、友達とトラブルになることがある。 ・休み時間は、一人で本を読んでいることが多い。 ・集団活動では、ルールの理解や相手の気持ちの理解が難しく、友達とトラブルになることがある。 			
重 点 的 に 取 り 組 む 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題を読み取る力や、板書を書き写す力を身に付ける。 ・期限までに提出物を出すことができるようにする。 ・友達とのコミュニケーションのとり方を身に付ける。 				

今 年 度 の 目 標 (長期目標)		主な指導の場
学 習 面	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味を正しく読み取ったり、時間内に書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導
生 活 行 動 面 ・	<ul style="list-style-type: none"> ・期限までに、プリント類等の提出物を出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動 ・教科指導
社 会 性 ・ 人 間 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動を振り返ることで、友達とのトラブルを減らすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般 ・学級活動 ・部活動

記入例

(1) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
学習面 / 生活・行動面 社会性・対人関係面 ・文章題を読み取る力を付ける。 ・提出期限までに、レポートやプリント類等の提出物を出すことができる。 ・自分の言動を振り返り、正しい言動ができるようにする。	・重要な語句や数字に自分で印をつけたり、分らない語句を自分で調べたりするよう言葉かけ。 ・チャックリストを使用し、準備した物を手エック欄に自分で印をつけるようにする。 ・トラブルがあったときに、相手の気持ちを表情カードで示す。その後、正しい言動を一緒に考える。	◎ 自分で語句に印を付けたり、電子辞書で調べたりする習慣がついてきた。 ◎ 自分で確認しながら準備するようになり、ほぼ期限までに提出物を出すことができるようになった。 △ 正しい言動は理解できてきたが、同じ言動を繰り返してトラブルが続いている。	来学期の指導のできたので、目標を変えて取り組む。 ・目標が達成できたので、目標を変えて取り組む。 ・カードではなく、本生徒が関心のあるタブレットのアプリを使用して取り組む。	

(2) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
学習面 / 生活・行動面 社会性・対人関係面 ・時間内にノートやプリントに書くことができる。 ・集団の中で、相手の話をよく聞いて行動することができる。 ・自分の言動を振り返り、正しい言動ができるようにする。	・ワークシートを用いてポイントのみ書くようにしたり、板書が間に合わないときは、画像にוותって後から自分で書くようにする。(合意形成) ・教師が活動の手順や内容を板書し、それを見て、自分でメモにとるように促す。 ・トラブルがあったときに、相手の気持ちを表情アプリで示す。また、正しい言動を一緒に考える。			

(3) 学 期 の 取 り 組 み				
指 導 目 標 (短期目標)	指 導 の 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来年度の指導の方向性	
学習面 / 生活・行動面 社会性・対人関係面				

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △ 達成していない

「個別の指導計画」様式

個別の指導計画

(. . . 作成) 担任名

氏名		〇〇〇〇	生年月日	年 月 日	歳
現在の 実態	保護者の願い				
	遊び・運動面				
	生活・行動面				
	社会性・情緒面				
重点的に取り組む指導の観点					

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
遊び・運動面		
生活・行動面		
社会性・対人関係		

様式

() 学期の取り組み				
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
動遊面／社会性・対人関係行				
() 学期の取り組み				
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
動遊面／社会性・対人関係行				
() 学期の取り組み				
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来年度の指導の方向性	
動遊面／社会性・対人関係行				

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △達成していない

個別の指導計画

(. . . 作成) 担任名

氏名		生年月日	年	月	日	歳	第	学年	組
現 在 の 実 態	子ども保護者の 願い								
	生活・行動面								
	学習面								
	社会性・情緒面								
重点的に取り組 む指導の観点									

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面		
生活面・ 行動面		
社会性・ 対人関係		

様式

() 学期の取り組み			
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係面			

() 学期の取り組み			
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係面			

() 学期の取り組み			
指導目標(短期目標)	指導の手立て	評価(◎ ○ △)	来年度の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係面			

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △達成していない

— 引用・参考文献 —

文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月）

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館（平成20年10月）

文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」東洋館出版社（平成20年8月）

文部科学省「中学校学習指導要領解説 総則編」ぎょうせい（平成20年9月）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総則編」東山書房（平成21年11月）

改訂新版「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」東洋館出版社

（平成25年4月）

東京都教育委員会「障害のある児童・生徒のための個別の指導計画 Q&A」（平成9年2月）

山口県教育委員会「特別支援教育における「個別の指導計画」の作成のために」

（平成21年12月）

愛媛県教育委員会特別支援教育課ホームページ「個別の指導計画」

（<http://ehime-c.esnet.ed.jp/shougaiji/>）

香川県教育委員会「香川県教育基本計画」（平成28年3月）

香川県教育委員会「改訂版 特別支援教育学級担任・通級指導教室担当者のための特別支援教育ハンドブック」（平成27年3月）

香川県教育委員会特別支援教育課ホームページ「個別の指導計画」様式

（<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/tokubetsusien/>）

香川県教育委員会「『気付き』が支援のはじまりです」（平成24年）

「個別の指導計画」作成と活用の手引き

～「気付き」から計画的な「支援」へ～

平成29年3月

香川県教育委員会事務局特別支援教育課

〒760-8582 香川県高松市天神前6番1号

TEL 087-832-3757

FAX 087-806-0232

URL <http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/>

E-mail tokubetsusien@pref.kagawa.lg.jp

